

予後情報も網羅しており、施設の診療科データベースとして利用できる仕組みとなっている。さらに放射線治療が重要な役割を示す5疾患（乳癌、子宮頸癌、食道癌、肺癌、前立腺癌）の各論データベースに関しては、同疾患の臓器別がん登録の登録項目を網羅した形となっており、JNCDBにデータを入力したものは各学会が運営している臓器別がん登録に提出できるデータとなっている。また、個人情報部分は、厚生労働省が標準化を進めている「院内がん登録」の標準登録様式と一致させているため、施設内でのデータ連携も可能となっている。

がん診療施設には院内がん登録（地域がん登録のデータ源）と診療科データベース（臓器別がん登録のデータ源）が存在する。従来は互いに独立したデータベースであったため、相互のデータ連携がなされておらず、重複している登録項目が多数存在しているにもかかわらず、それぞれ独立に登録を行っているため、登録の手間が重複してしまうという問題点が挙げられる。本研究で開発したJNCDBおよび食道癌全国登録データベースシステムは患者個人情報部分フォーマットを院内がん登録の登録標準様式に合わせたことにより、施設内でのがん診療情報のデータ連携が容易となる。

がん診療の質は「Structure（施設構造）」、「Process（診療過程）」、「Outcome（治療成績）」の3つの要素から評価されるべきである。本研究班でWeb登録システムの構築したJASTROの構造調査は放射線治療施設の構造データを収集しており、データ回収率9割を超える全数調査に近いもので、データの信頼性が極めて高い。JNCDBが放射線治療分野の臓器別がん登録として全国データを収集するようになり、JASTROの構造調査データと連携することで、日本だけに留まらず、世界でも類を見ないがん診療データベースシステムとなり得る。

#### E. 結論

がん診療において、正確で詳細ながん診療データを保管・利用可能ながん診療（診療科）データベースシステムとしてJNCDB、食道癌全国登録、及

びJASTRO構造調査Web登録システムを構築・公開した。

#### F. 健康危険情報 なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

Numasaki H., Harauchi H., Ohno Y., Inamura K., Kasahara S., Monden M., Sakon M. New classification of medical staff clinical services for optimal reconstruction of job workflow in a surgical ward: Application of spectrum analysis and sequence relational analysis. *Comput. Stat. Data. An.*, 51(12): 5708-5717, 2007.

手島昭樹, 沼崎穂高, 渋谷均, 西尾正道, 池田恢, 伊東久夫, 関口建次, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 多湖正夫, 永田靖, 正木英一, 西村哲夫, 山田章吾, JASTROデータベース委員会. 全国放射線治療施設の2005年定期構造調査報告(第1報). *日放腫会誌*, 19: 181-192, 2007.

手島昭樹, 沼崎穂高, 渋谷均, 西尾正道, 池田恢, 伊東久夫, 関口建次, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 多湖正夫, 永田靖, 正木英一, 西村哲夫, 山田章吾, JASTROデータベース委員会. 全国放射線治療施設の2005年定期構造調査報告(第2報). *日放腫会誌*, 19: 193-205, 2007.

Uno T., Sumi M., Ishihara Y., Numasaki H., Mitsumori M., Teshima T., Japanese PCS Working Subgroup of Lung Cancer. Changes in patterns of care for limited-stage small-cell lung cancer: Results of the 99-01 patterns of care study - A nationwide survey in Japan, *Int. J. Radiat. Oncol.*, 71 (2): 414-419, 2008.

Teshima T., Numasaki H., Shibuya H., Nishio M., Ikeda H., Ito H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Nagata Y., Masaki H., Nishimura T., Yamada S., Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee. Japanese structure survey of radiation oncology in 2005

based on institutional stratification of patterns of care study. *Int. J. Radiat. Oncol.*, 72 (2), 144-152, 2008.

Numasaki H., Ohno Y., Ishii A., Kasahara S., Fujimoto H., Harauchi H., Inamura K., Monden M., Sakon M. Workflow Analysis of Medical staffs in Surgical Wards Based on the Time-Motion Study Data. *Japan Hospitals*, 27: 75-80, 2008.

小澤壯治, 日月裕司, 田中乙雄, 篠田雅幸, 宇田川晴司, 松原久裕, 馬場秀夫, 竹内裕也, 小山恒男, 室圭, 宇野隆, 手島昭樹, 沼崎穂高, 山名秀明, 小西敏郎. 食道癌全国登録の再開にあたり一問題点と解決法一. *癌と化学療法*, 35 (9): 1497-1499, 2008.

Ide H., Ozawa S., Matsubara H., Saito T., Shinoda M., Tachimori Y., Tanaka O., Udagawa H., Yamana H., Teshima T., Numasaki H., and J. P. Barron. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2000, *Esophagus*, 6 (1), 27-47, 2009.

佐々木良平, 沼崎穂高, 西尾禎治, 福田晴行, 芦野靖夫, 大西洋, 中村和正, 永田靖, 手島昭樹. 第4回JASTRO将来計画セミナー報告 JASTROの視点から考える「文部科学省・がんプロフェッショナル養成プラン」-All Japanとして, "がんプロ"実施5年間をどのように取り組み, 如何に活用できるか? *日放腫会誌*, 21 (1), 19-25, 2009.

寺原敦朗, 沼崎穂高. Special Report IHE-RO: Current status and problem (IHE-ROの現状と問題点) 臨床医およびJASTROデータベース委員会の立場から, *日放腫会誌*, 21 (1), 49-53, 2009.

Yogo A., Sato K., Nishikino M., Mori M., Teshima T., Numasaki H., Murakami M., Demizu Y., Akagi S., Nagayama S., Ogura K., Sagisaka A., Orimo S., Nishiuchi M A., S. Pirozhkov Ikegami M., Tampo M., Sakaki H., Suzuki M., Daito I., Oishi Y., Sugiyama H., Kiriya H., Okada H., Kanazawa S.,

Kondo S., Shimomura T., Nakai Y., Tanoue M., Sasao H., Wakai D., P. R. Bolton, and Daido H.

Application of laser-accelerated protons to the demonstration of DNA double-strand breaks in human cancer cells, *Appl. Phys. Lett.*, 94 (18), 1502, 2009.

Ozawa S., Tachimori Y., Baba H., Matsubara H., Muro K., Numasaki H., Oyama T., Shinoda M., Takeuchi H., Tanaka O., Teshima T., Udagawa H., Uno T., Yamana H., Konishi T., and J. P. Barron. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2001, *Esophagus*, 6 (2), 95-110, 2009.

Numasaki H., Teshima T., Shibuya H., Nishio M., Ikeda H., Ito H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Nagata Y., Masaki H., Nishimura T., Yamada S., and JASTRO Database Committee. National Structure of Radiation Oncology in Japan with Special Reference to Designated Cancer Care Hospital, *Int. J. Clin. Oncol.*, 14 (3), 237-244, 2009.

Kenjo M., Uno T., Murakami Y., Nagata Y., Oguchi M., Saito S., Numasaki H., Teshima T., and Mitsumori M. Radiation therapy for esophageal cancer in Japan: Results of the Patterns of Care Study 1999-2001, *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 75 (2), 357-363, 2009.

Mukumoto N., Tsujii K., Saito S., Yasunaga M., Takegawa H., Yamamoto T., Numasaki H., and Teshima T. A preliminary study for in-house Monte Carlo simulations: An integrated Monte Carlo verification system, *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 75 (2), 571-579, 2009.

手島昭樹, 沼崎穂高, 渋谷均, 西尾正道, 池田恢, 関口建次, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 多湖正夫, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 西村哲夫, 晴山雅人, JASTROデータベース委員会. 全国放射線治療施設の2007年

定期構造調査報告 (第1報). *日放腫会誌*, 23 (3・4), 113-125, 2009.

手島昭樹, 沼崎穂高, 渋谷均, 西尾正道, 池田恢, 関口建次, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 多湖正夫, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 西村哲夫, 晴山雅人, JASTROデータベース委員会. 全国放射線治療施設の2007年定期構造調査報告 (第2報). *日放腫会誌*, 23 (3・4), 127-138, 2009.

Teshima T., Numasaki H., Shibuya H., Nishio M., Ikeda H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Mitsumori M., Nishimura T., Hareyama M., and Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee, *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* (in press).

## 2. 学会発表

Numasaki H., Teshima T., Shibuya H., Nishio M., Ikeda, H., Ito H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Nagata Y., Masaki H., Nishimura T., Yamada S., Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee. Japanese structure survey of radiation oncology in 2005, The 15th Anniversary of Hiroshima Cancer Seminar Foundation, The 17th International Symposium (Hiroshima), 2007/11/11

沼崎穂高. ワークショップ2 放射線腫瘍学の情報系整備と活用 診療の質評価のための米国National Cancer Databaseの現状と課題, 日本放射線腫瘍学会第22回学術大会 (京都), 2009/9/18.

沼崎穂高, 手島昭樹, 池田恢, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 村上昌雄, 光森通英, JASTRO データベース委員会. 放射線腫瘍学広域データベースの開発と運用, 第293回日本医学放射線学会関西地方会 (大阪), 2009/10/17.

H. 知的財産権の出願・登録状況  
なし

がんの診療科データベースと Japanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と運用

分担研究：JNCDB, がんセンター情報部門との研究整合性調整

分担研究者 池田 恢 市立堺病院 副院長

【目的と方法】 米国のがん医療の地域連携の実態とがん登録との関連をみるため、米国ミネソタ州ロチェスターMayo Clinic の Radiation Oncology 部門を見学し、地域連携のあり方、データ交換と登録などについて見学した。【結論】 ①医療連携には強固な医療情報系の確立が前提と考えられる。Mayo Clinic においても米国 NCI のがん医療方針が提唱するネットワークが Mayo Regional Cancer Program の形で形成されており、有機性をもって維持運営されていた。②このシステムはがん登録とも一体化したシステムと考えられる。

【目的】 がん医療の地域連携の体制を考察するため、米国のがん医療の地域連携の実態とがん登録との関連をみる。

【方法】 2007年11月2日、米国ミネソタ州ロチェスターMayo Clinic の Radiation Oncology 部門を見学し、地域連携のあり方、データ交換と登録などについて見学した。

【結果】 ①Mayo Health System と呼ぶシステムを持っている。放射線治療部門では Mayo Clinic Radiation Oncology Regional Practice Network がそれに当る。Mayo Clinic にはその 100 km 圏内に4つの Regional Cancer Center があり、そこでは腫瘍内科医による外来化学療法とともに外部照射放射線治療が外来基盤で行われている。システムについては周囲 100km 以内の病院と契約を結ぶ。Mayo は人と品質を、施設は設備を提供する、という契約であるが、いずれは人も機械も提供する体制である。

② Mayo Clinic の放射線治療部門は Methodist Hospital 内にある。リニアック 6

台、CT-Simulator は 3 台。他に IORT 用が 1 台 (St. Marys 病院にある)、ドクターは 7 名、レジデント数名がつく。年間 2200 名の新患者を治療している。医学物理士は 20 名で、彼らは Mayo Health System で契約した周辺施設のも合わせ計 14 台を管理している。契約病院には人材 (腫瘍医師、物理士、技師、Dosimetrist など) をセットとして派遣する。契約病院として 4 つの Regional Cancer Center があり、そことも連携している。連携病院ではリニアックは 2 台が通常規模である。Regional Cancer Center は更にその地区のホームドクターと連携し、治療可能な患者を放射線治療している。Mayo Clinic から Regional Cancer Center へは、地域 TV ネットワークを通じて会議が可能で、それらからの放射線治療計画あるいは検証の要請もある。③患者記録が IT 化されている。病院放射線治療の電子システムは IMPAC が開発導入した (=現在 ELEKTA 社) が、極めてよく動くようである。周辺地域とも連携はこれによっている。即ちこのシステムは現在では IT に依

存している。

Regional Cancer Center は外来化学療法の部屋ももっていて、いわば「外来医療センター」である（但し、必ずしも内科腫瘍医と一緒にもない施設もある模様）。現在、ミネアポリス方向に延ばそうとしている。

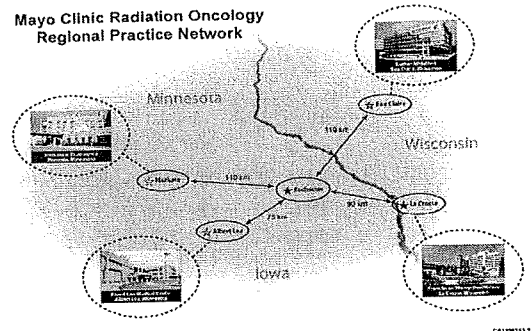
【考察】①米国はNCIの理念に基づいて地域連携が成立していると考えられる。これにも近隣施設間での競合がある模様だが、Mayoは力があるので（いわば力による連携として）動いている。このように医療連携は確立しているが、問題の患者に関してはフォローアップは通常主治医＝地域家庭医に任すだけでなく、自分でも診るという方針である。カナダの場合は英国に倣っているはずで、もっと連携は強いはずであるが、今回は見学考察の機会はなかった。

②Mayoの患者記録はその保存状況（過去の病歴がみられ、経験として活かされる）からも有名であるが、今では全システムが電子化されている。IMPAC社が関与していると考えられるが、IT化されて使いやすい印象を受けた。がん登録とも一体化したシステムと考えられ、がん登録が地域にも還元されるべき基盤となっているはずである。

【結論】①医療連携には強固な医療情報系の確立が前提と考えられる。Mayo Clinicにおいても米国NCIのがん医療方針が提唱するネットワークがMayo Regional Cancer Programの形で形成されており、有機性をもって維持運営されていた。

②このシステムはがん登録とも一体化したシステムと考えられる。

【参考文献】Miller, RC, et al.: Use of



telemedicine to improve quality of care in a regional radiation oncology treatment network. (unpublished)

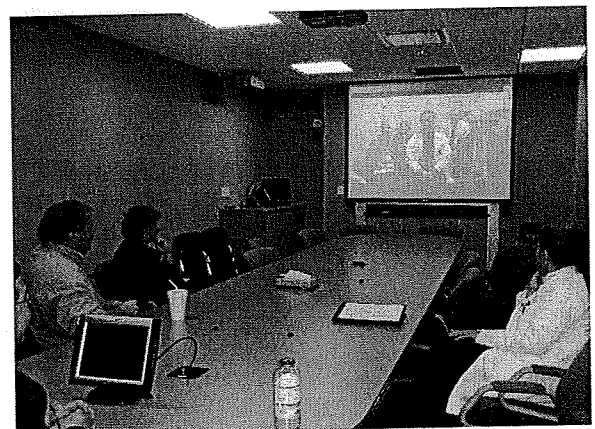


図1. Mayo Clinic の Regional Network

図2. Mayo Clinic System 各施設の放射線物理の会合 (Courtesy: R. Miller, RO, Mayo Clinic)

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）  
（総合）研究報告書

がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と運用

分担研究者 寺原敦朗 東京大学医学部附属病院放射線科 講師

研究要旨 JASTROパネルディスカッション、米国IMPAC社の視察やベンダーとの交渉、JNCDBデータ入力などを通じて、日米のがん登録の違いや日本における問題点を再認識し、今後JNCDBの開発、運用には、各ベンダーとも協力して、法的、人的な面も含めた環境整備も必要であることが明らかとなった。

A. 研究目的

JNCDBを構築運用していくにあたって、基礎となる診療科DBやRIS、院内がん登録などの問題点について明らかにするとともに、その改善策を検討する。

B. 研究方法

JASTRO2008におけるIHE-J ROについてのパネルディスカッションへの参加および発表することで、当施設の現状を報告した。JNCDBへのデータ入力を通じて、診療科DBとの連携の問題について具体的に検討した。米国IMPAC社および実際に使用されている施設の視察とベンダーとの交渉を行い、我が国、また当施設への導入について、協議交渉を行った。

(倫理面への配慮)

JNCDB feasibility studyでは、データの匿名化を行って提出しており、個人情報保護の点においても問題ない。

C. 研究結果

当施設における診療科DBの問題点、RISや院内がん登録との連携がなく入力負担が大きいこと、入力データのばらつきの問題などが明らかとなった。IMPAC社の視察においては、日米のシステムの大きな違いについて再認識し、IMPAC社製品の日本への導入可能性が確認され、日本独自の解決すべき問題点も含めて、ベンダーと検討交渉中である。

D. 考察

IMPAC社製等のベンダー製品にJNCDB

につながる登録機能を持たせることが可能となり、うまく導入が可能となれば、大いに役立つと思われる。入力の標準化、入力作業を行う専門スタッフの育成も課題である。

E. 結論

JNCDBを信頼性の高いデータベースとするためには、法制化などによる環境の整備、専門スタッフの育成、統一された入力作業による信頼性の高いデータ入力、およびベンダーの協力も得て、MOSAIQ等のすぐれたシステムの導入などが必要と思われる。

F. 研究発表

1. 論文発表

寺原敦朗, 沼崎徳高: IHE-ROの現状と問題点 臨床医およびJASTROデータベース委員会の立場から. 日放腫会誌 21(1): 49-53, 2009.

中村直樹, 寺原敦朗: がん治療の臨床最前線放射線治療を中心に 頭頸部がんわが国の局所進行頭頸部がんに対するCRTの現状. INNERVISION 24: 25-27, 2009

2. 学会発表

寺原敦朗, 芳賀昭弘, 伊藤さおり, 笹野伸史, 白石憲史郎, 山下英臣, 大熊加恵, 中川恵一. ERGO VMATを用いた頭頸部IMRTの初期経験. 日本放射線腫瘍学会第22回学術大会. 2009. 9. 京都

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記すべきことなし

厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)

(総合)分担研究報告書

がんの診療データベースと Japanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用

(分担)研究者 佐々木 茂 信州大学医学部助教

研究要旨

本邦におけるがん診療の構造(医療従事者、設備)および診療課程の実態を把握し、適正な診療体系を構築するためのデータベース作りを行う。特に、臓器別がん登録とモダリティ別のデータベースの有機的連携を図る。

A. 研究目的

がん診療評価において、治療結果を公平・迅速に評価するために、患者の視点から最も重要な個々の医療機関、診療従事者によるがん患者の治療成績に重点を置き、実際の患者の診療内容についての国全体のがん情報データベース Japanese National Cancer Database(JNCDB)を構築し運用する。それによってがんの実態を把握し、情報発信を行う。

B. 研究方法

登録施設において、本研究班で開発した症例登録ソフトを用いて登録事項を入力し、さらに専用ソフト(ハッシュ関数による匿名化方法)を用いて個人情報の匿名化を行ったデータをコピーしたCD-Rに保存しJNCDB事務局へ送付する。

(倫理面への配慮) 収集項目に関して、個人情報となる患者基本情報は連結可能匿名化し収集するが、元データと匿名化データの対応表は各医療施設のみ保有することとし、施設外に出さないようにする。

C. 研究成果

乳癌症例は9施設から411症例が登録された。JPCSで集積されたデータと比較すると、乳房温存療法において断端陽性例に対する腫瘍床へのブースト照射の施行率や全乳房照射線量 50 Gy/25回の頻度が上昇して

いた。

D. 考察

各施設 HIS や RIS など、ある程度のデータベースがあっても、CSV の様な形で外部出力できないとデータを入手するのは難しい。電子カルテ導入の際に外部出力を考慮したシステムを構築しなければならない。院内がん登録や地域がん登録との連携も含めて新しいシステム導入の際に考えなければならない。

E. 結論

本邦におけるがん診療の構造・課程・結果を把握するためのデータベースを構築する基盤が整備された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表:なし
2. 学会発表:なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得:なし
2. 実用新案登録:なし
3. その他:なし

### Ⅲ.研究成果の刊行に関する一覧表



## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
内藤誠二, 三木恒治, 他	前立腺がん検診 ガイドライン	日本泌尿器科学会 編	前立腺がん検診 ガイドライン	金原出版	東京	2010	
大山優, 角美奈子, 他	中枢神経系腫瘍.	佐藤隆美, 藤原康弘, 古瀬純治, 大山優	がん治療エッセ ンシャルガイド	金原出版	東京	2009	
鹿間直人, 他	放射線療法	監修 園尾博司 鹿間直人 他編	これからの乳癌 診療. 2009-2010	金原出版	東京	2009	71
内藤誠二, 三木恒治, 他	前立腺がん検診 ガイドライン	日本泌尿器科学会 編	前立腺がん検診 ガイドライン	金原出版	東京	2008	
鹿間直人, 他	放射線療法	監修 園尾博司 鹿間直人 他編	これからの乳癌 診療2008~2009	金原出版	東京	2008	
鹿間直人.,	名医にQ—肺癌	NHK出版	名医にQ—肺癌	NHK出版	東京	2008	
大西洋	呼吸移動対策	大西洋、他	放射線治療計画 ガイドライン 2008	NHK出版	日本	2008	
小泉雅彦	骨軟部腫瘍	日本放射線科専門医 会・医会.	放射線治療計画 ガイドライン2008	メヂカル教 育研究社	東松山 市	2008	272- 277
藤岡知昭, 三木恒治, 他	腎癌診療ガイド ライン	日本泌尿器科学会 編	腎癌診療ガイド ライン	金原出版	東京	2007	
笠松高弘, 他.	子宮がん・卵巣が ん	監修 野村和弘, 平出 朝子 笠松高弘編	がん看護実践シ リーズ9	メジカル フレンド 社	東京	2007	

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Teshima T., Numasaki H., Koizumi M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Mitsumori M., et al. Japanese society of therapeutic radiology and oncology database committee.	Japanese structure of radiation oncology in 2007 based on institutional stratification of Patterns of Care Study.	Int. J. Radiat.Oncol. Biol. Phys.,	(in press)		2010
Numasaki H., Teshima T., Koizumi M., et al. Japanese society of therapeutic radiology and oncology database committee.	National structure of radiation oncology in Japan with special reference to designated cancer care hospitals.	Int. J. Clin. Oncol.	14	237-44	2009

Ide H., <u>Tachimori Y.</u> , <u>Teshima T.</u> , <u>Numasaki H.</u> , et al.	Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2000.	Esophagus	6(1)	27-47	2009
Yogo A., <u>Teshima T.</u> , <u>Numasaki H.</u> , et al.	Application of laser-accelerated protons to the demonstration of DNA double-strand breaks in human cancer cells.	Applied Physics Letter	94(18)	1502	2009
Yoshioka Y., <u>Teshima T.</u> , <u>Koizumi M.</u> , et al.	External-beam radiotherapy for clinically localized prostate cancer in Osaka, Japan, 1995-2006:time trends, outcome, and risk stratification.	Strahlenther Onkol.	185(7)	446-52	2009
<u>Kenjo M.</u> , <u>Uno T.</u> , <u>Numasaki H.</u> , <u>Teshima T.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , et al.	Radiation therapy for esophageal cancer in Japan: Results of the Patterns of Care Study 1999-2001.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75(2)	357-63	2009
Akino Y., <u>Teshima T.</u> , et al.	Carbon-ion beam irradiation effectively suppresses migration and invasion of human non-small-cell lung cancer cells.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75(2)	475-481	2009
Mukumoto N., <u>Numasaki H.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al.	A preliminary study of in-house Monte Carlo simulations: An integrated Monte Carlo verification system.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75(2)	571-579	2009
Sasaki T., <u>Nakamura K.</u> , <u>Ogawa K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al.	Radiotherapy for patients with localized hormone-refractory prostate cancer: results of the Patterns of Care Study in Japan.	BJU Int.	104(10)	1462-6	2009
<u>Ogawa K.</u> , <u>Nakamura K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al. Japanese Patterns of Care Study working subgroup of prostate cancer.	External beam radiotherapy for clinically localized hormone-refractory prostate cancer: clinical significance of nadir prostate-specific antigen value within 12 months.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	74	759-65	2009
<u>Nakamura K.</u> , <u>Ogawa K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al. and Japanese Patterns of Care Study working subgroup of prostate cancer.	Patterns of radiation treatment planning for localized prostate cancer in Japan: 2003-2005 Patterns of Care Study report.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(12)	820-4	2009
<u>Ogawa K.</u> , <u>Nakamura K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al.	Postoperative radiotherapy for localized prostate cancer: clinical significance of nadir prostate- specific antigen value within 12 months.	Anticancer Res.	29(1)	4605-13	2009
Ozawa S., <u>Tachimori Y.</u> , <u>Numasaki H.</u> , <u>Teshima T.</u> , <u>Uno T.</u> , et al. The registration committee for esophageal cancer.	Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2001	The Japan Esophageal Society	6	95-110	2009

Kodaira T., Toita T., Uno T., Teshima T., Mitsumori M., et al.	Japanese Patterns of Care Study of definitive radiotherapy for cervical carcinoma among three surveys.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	S375	2009
Toita T., Kodaira T., Shikama N., Kenjo M., Teshima T., et al.	Quality assurance in the prospective multi-institutional trial on definitive radiotherapy using high-dose-rate intracavitary brachytherapy for uterine cervical cancer: The individual case review.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(12)	813-19	2009
Kenjo M., Numasaki H., Teshima T., Mitsumori M., et al.	Analysis of the factors which affect on the nodal area irradiation for esophageal cancer: Results of the patterns of care study in Japan.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	S289	2009
手島昭樹, 沼崎穂高, 小泉雅彦, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 他 JASTROデータベース委 員会.	全国放射線治療施設の2007年定 期構造調査報告 (第1報)	日放腫会誌	21	113-125	2009
手島昭樹, 沼崎穂高, 小泉雅彦, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 他 JASTROデータベース委 員会.	全国放射線治療施設の2007年定 期構造調査報告 (第2報)	日放腫会誌	21	127-138	2009
手島昭樹, 光森通英. 日本PCS作業部会	Patterns of Care Study (PCS) 特 集: がん放射線療法の進歩と展望	最新医学	64	1123-1128	2009
手島昭樹, 安藤裕.	IHE-ROの現状と問題点 特集 IHE-ROの現状と問題点	日放腫会誌	21	28	2009
Okada K., Miki T., et al	Predicting factors for positive repeat biopsy in community-based prostate cancer screening in Japan.	Int. J. Urol.	(in press)		
Miki T., et al.	Post-chemotherapy nerve-sparing retroperitoneal lymph node dissection for advanced germ cell tumor.	Int. J. Urol.	16	379-382	2009
Suzuki K., Miki T., et al.	Histologic and electrophysiological study of nerve regeneration using a polyglycolic acid-collagen nerve conduit filled with collagen sponge in canine model.	Urology	74	958-963	2009
Okihara K., Miki T., et al.	Transrectal ultrasound navigation during minilaparotomy retropubic radical prostatectomy: impact on positive margin rates and prediction of earlier return to urinary continence.	Int. J. Urol.	16	820-5	2009

Tamura K., <u>Miki T.</u> , et al.	Novel lipogenic enzyme ELOVL7 is involved in prostate cancer growth through saturated long-chain fatty acid metabolism.	Cancer Res.	69	8133-8140	2009
Shiraishi T., <u>Miki T.</u> , et al.	Salvage chemotherapy with paclitaxel and gemcitabine plus nedaplatin(TGN) as part of multidisciplinary therapy in patients with heavily pretreated cisplatin-refractory germ cell tumors.	Int. J. Clin. Oncol.	14	436-441	2009
Nonomura N., <u>Miki T.</u> , et al.	Brain metastases from testicular germ cell tumors: a retrospective analysis.	Int. J. Urol.	16	887-893	2009
Kobayashi Y., <u>Tachimori Y.</u> , et al.,	Histological diversity in basaloid squamous cell carcinoma of the esophagus.	Dis. Esophagus.	22	231-8	2009
<u>Tachimori Y.</u>	Salvage esophagectomy after high-dose chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma.	J. Thorac. Cardiovas. Surg.	137	49-54	2009
<u>Tachimori Y.</u>	Role of salvage esophagectomy after definitive chemoradiotherapy.	Gen. Thorac. Cardiovasc. Surg.	57	71-8	2009
Tanioka M., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Clinical characteristics and outcomes of women with stage IV endometrial Cancer.	Med. Oncol..	(in press)		2010
Iura A., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Serous adenocarcinoma of the retroperitoneum, as a type of multifocal mullerian carcinoma.	Int. J. Clin. Oncol.	14(3)	254-7,	2009
Uehara T., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	A case of vaginal clear cell adenocarcinoma complicated with congenital anomalies of the genitourinary tract and metanephric remnant without prenatal diethylstilbestrol (DES) exposure.	Int. J. Obstet. Gynaecol. Res.,	(in press)		2009
<u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Prognostic significance of positive peritoneal cytology in adenocarcinoma of the uterine cervix.	Gynecol. Oncol.	115	488-492	2009
<u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Radical hysterectomy for FIGO stage IIB cervical cancer: clinicopathological characteristics and prognostic evaluation.	Gynecol. Oncol.	114	69-74	2009
<u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Radical hysterectomy for FIGO stage I-IIIB adenocarcinoma of the uterine cervix.	Br. J. Cancer	100	1400-5	2009

Nishio S., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Usefulness of third-line chemotherapy for women with recurrent ovarian, fallopian tube, and primary peritoneal cancer who receive platinum/taxane regimens as first-line therapy.	J. Cancer Res. Clin. Oncol.	135	551-7	2009
Nishio S., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Clinicopathological significance of cervical adenocarcinoma associated with lobular endocervical glandular hyperplasia.	Pathol. Res. Pract.	205(5)	331-7	2009
Hasebe T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	P53 expression in tumor-stromal fibroblasts is closely associated with the nodal metastasis and outcome of patients with invasive ductal carcinoma who received neoadjuvant therapy.	Human Pathology	(in press)		2009
Akagi T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Clinical and pathological features of intracystic papillary carcinoma of the breast.	Surgery Today	39(1)	5-8	2009
Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Comparison among different classification systems regarding the pathological response of preoperative chemotherapy in relation to the long-term outcome.	Breast Cancer Res. Treat.	113	307-313	2009
Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Clinicopathological features of tumors as predictors of the efficacy of primary neoadjuvant chemotherapy for operable breast cancer.	World Journal of Surgery	33	44-51	2009
Yonemori K., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Immunohistochemical expression of PTEN and phosphorylated Akt are not correlated with clinical outcome in breast cancer patients treated with trastuzumab-containing neo-adjuvant chemotherapy.	Med. Oncol.	26	344-349	2009
Akashi-Tanaka S., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	21-Gene expression profile on core needle biopsies predicts responses to neoadjuvant endocrine therapy in breast cancer patients.	The Breast	18	171-174	2009
Akashi-Tanaka S., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Whole-breast volume perfusion images using 256-row multislice computed tomography :visualization of lesions with ductal spread.	Breast Cancer	16	62-67	2009
Yoshida M., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	A case of ductal carcinoma in situ of the breast.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(2)	132	2009
Hojo T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Primary small cell carcinoma of the breast.	Breast Cancer	16	68-71	2009

Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Usefulness of preoperative multidetector-row computed tomography in evaluating the extent of invasive lobular carcinoma in patients with or without neoadjuvant chemotherapy.	Breast Cancer	16	30-36	2009
Tamura N., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Tumor histology in lymph vessels and lymph nodes for the accurate prediction of outcome among breast cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy.	Cancer Science	100(10)	1823-1833	2009
Hasebe T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	P53 expression in tumor stromal fibroblasts in associated with the outcome of patients with invasive carcinoma of the breast.	Cancer Science	100(11)	2101-2108	2009
Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Primary tumor resection improves the survival of younger patients with metastatic breast cancer.	Oncology Reports	21	827-832	2009
木下貴之.	乳癌	治療	91(10)	2476-2482	2009
木下貴之, 他.	術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検の現状と展望.	乳癌の臨床	24(1)	71-76	2009
木下貴之.	術前薬物療法; 最近の知見.	Pharma Medica	27(2)	21-25	2009
木下貴之.	乳癌治療における画像診断の役割—術前化学療法と画像診断—.	日獨医報	54(2)	136-142	2009
菊山みずほ, 木下貴之.	若年男性乳癌の1例.	手術	63(11)	1735-1739	2009
Sawabata N., <u>Goya A.</u> , et al.	Japanese lung cancer registry study demographics and prognoses of 14,695 patients who were diagnosed in 2002 and followed-up prospectively for 5 years.	J. Thorac. Oncol.	(in press)		
Okami J. <u>Goya T.</u> , et al.	Pulmonary resection in patients aged 80 years or over with clinical stage I non-small cell lung cancer: Prognostic factors for overall survival and risk factors for postoperative complications.	J. Thorac. Oncol.	4	1247-1253	2009
Nishimura Y., <u>Mitsumori M.</u> , et al.	A randomized phase II study of cisplatin/5-FU concurrent chemoradiotherapy for esophageal cancer: Short-term infusion versus protracted infusion chemotherapy (KROSG0101/JROSG021).	Radiother Oncol.	92	260-265	2009

Mitsumori M., et al.	Impact of radiation therapy on breast-conserving therapy for breast cancer in Japanese women: a retrospective analyses of multi-institutional experience. Kansai breast cancer radiation therapy study group.	Oncol. Rep.	21	1461-1466	2009
Matsumoto K., Mitsumori M., et al.	Questionnaire survey of treatment choice for breast cancer patients with brain metastasis in Japan: results of a nationwide survey by the task force of the Japanese Breast Cancer Society.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39	22-26	2009
Itami J., Sumi M., et al.	High-Dose-Rate brachytherapy alone in postoperative soft tissue sarcomas with close/positive margins.	Brachytherapy	(in press)		2009
Fujimoto N., Sumi M., et al.	Relation between elective nodal failure and Irradiated volume in non-small-cell lung cancer (NSCLC) treated with radiotherapy using conventional fields and doses.	Radiother. and Oncol.	91	433-437	2009
Sekine I., Sumi M., et al.	Gender difference in treatment outcomes in patients with stage III non-small cell lung cancer receiving concurrent Chemoradiotherapy.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(11)	707-12	2009
Toita T.	Current status and perspectives of brachytherapy for cervical cancer.	Int. J. Clin. Oncol.	14	25-30	2009
Gaffney DK., Toita T., et al.	Patterns of care for radiotherapy in vulvar cancer: a Gynecologic Cancer Intergroup study.	Int. J. Gynecol. Cancer	19	163-7	2009
Toita T., et al.	Quality assurance in the prospective multi-institutional trial on definitive radiotherapy using high-dose-rate intracavitary brachytherapy for uterine cervical cancer: the individual case review.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(12)	813-9	2009
Tomita N., Kodaira T., et al.	Long-term follow-up and a detailed prognostic analysis of patients with oropharyngeal cancer treated with radiotherapy.	J. Cancer. Res. Clin. Oncol.	(in press)		
Kodaira T., et al.	Prospective study of alternating chemoradiotherapy consisted of extended-field dynamic conformational radiotherapy and systemic chemotherapy using 5FU and Nedaplatin for patients with high-risk group of cervical carcinoma.	Int. J. of Radiat. Oncol. Biol. Phys.	73(1)	251-258	2009

Kodaira T., et al.	Aichi Cancer Center initial experience of intensity modulated radiation therapy for nasopharyngeal cancer using helical tomotherapy.	Int. J. of Radiat. Oncol. Biol. Phys.	73(4)	1135-1140	2009
Ariji Y., Kodaira T., et al.	False-positive positron emission tomography appearance with 18F-fluorodeoxyglucose after definitive radiotherapy for cancer of the mobile tongue.	Br. J. Radiol.	82(973)	e3-7	2009
Tomita N., Kodaira T., et al.	A.Favorable outcomes of radiotherapy for early-stage mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma.	Radiother Oncol.	90(2)	231-235	2009
Nakamura T., Kodaira T., et al.	Determination of the irradiation field for clinical T1-T3N0M0 thoracic/abdominal esophageal cancer based on the postoperative pathological results.	Jpn. J. of Clin. Oncol.	39(2)	86-91	2009
Tomita N., Kodaira T., et al.	Dynamic conformal arc radiotherapy with rectum hollow-out technique for localized prostate cancer.	Radiother Oncol.	90(3)	346-352	2009
Tomita N., Kodaira T., et al.	A comparison of radiation treatment plans using IMRT with helical tomotherapy and 3D conformal radiotherapy for nasal natural killer/T-cell lymphoma.	Br. J. Radiol.	82(981)	756-63	2009
Nakamura T., Kodaira T., et al.	Clinical outcome of oropharyngeal carcinoma treated with platinum-based chemoradiotherapy.	Oral, Oncol.	45(9)	830-4	2009
Tomita N., Kodaira T., et al.	Early salvage radiotherapy for patients with PSA relapse after radical prostatectomy.	J. Cancer Res. Clin. Oncol.	135(11)	1561-7	2009
Kato H., Kodaira T., et al.	Favorable consolidative effect of high-dose melphalan and total-body irradiation followed by autologous peripheral blood stem cell transplantation after rituximab-containing induction chemotherapy with in vivo purging in relapsed or refractory follicular lymphoma.	Clinical Lymphoma & Myeloma	(6)	443-448	2009
古平毅.	「進化する放射線療法最新事情」トモセラピーによる IMRT(強度変調放射線治療)の実際.	がん患者ケア	2(3)	20-25	2009



古平毅 他.	21回 JASTRO シンポジウム特集 「IMRT の標準化に向けて」 Tomotherapy を用いた強度変調放射線治療の実践.	臨床放射線	54(5)	595-602	2009
古平毅.	がん放射線療法の進歩と展望 各論 頭頸部癌 治療精度の向上と QOL の改善をめざして.	最新医学	64(6)	1163-1170	2009
古平毅 他.	臨床 Topics IMRT 専用機 Tomotherapy の臨床的評価.	Cancer Frontier	11	180-187	2009
古平毅 他.	シンポジウム 強度変調放射線治療(IMRT)の中長期成績 -Tomotherapy を用いた強度変調放射線治療の治療成績と展望-.	頭頸部癌	35(3)	240-244	2009
古平毅 他.	総説 喉頭癌・副鼻腔癌の放射線治療.	臨床放射線	54(10)	1217-1226	2009
古平毅.	X 章 転移 2 転移・再発の治療 f 大腸がんに対する放射線治療 あなたを守る大腸癌ベスト治療.	昭和堂			2009
Katamura Y., Kenjo M., et al.	Intra-arterial 5-fluorouracil / interferon combination therapy for advanced hepatocellular carcinoma with or without three-dimensional conformal radiotherapy for portal vein tumor thrombosis.	J Gastroenterol.	44(5)	492-502	2009
Sugiyama K., Kenjo M., et al.	Quality of life of extremely long-time germinoma survivors mainly treated with radiotherapy.	Prog. Neurol. Surg.	23	130-9	2009
小口正彦, 鹿間直人.	放射線療法.	乳癌の臨床	24	47-53	2009
鹿間直人, 他.	放射線術後 照射.	乳癌の臨床	24	435-441	2009
鹿間直人.	がん放射線療法の進歩と展望 乳がんの放射線治療.	最新医学	64	1191-5	2009
中村直樹, 鹿間直人.	治療計画と照射線量.	臨床放射線 乳癌の診断と治療 Update	54	217-23	2009
関口建次, 鹿間直人.	乳房温存照射法 その適応と限界.	臨床放射線 乳癌の診断と治療 Update	54	209-16	2009
山内智香子, 鹿間直人.	PCS によるわが国の放射線療法の現状と JROSG の活動について	臨床放射線 乳癌の診断と治療 Update	54	277-84	2009
Sakayauchi T., Onishi H., Sasaki S., et al.	Comparison of cisplatin and 5-fluorouracil chemotherapy protocols combined with concurrent radiotherapy for esophageal cancer.	Jpn. J. Radiol.	27	131-7	2009

Inoue T., <u>Onishi H.</u> , et al.	Clinical outcomes of stereotactic body radiotherapy for small lung lesions clinically diagnosed as primary lung cancer on radiologic examination.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	683-7	2009
Nagata Y., <u>Onishi H.</u> , et al.	Survey of stereotactic body radiation therapy in Japan by the Japan 3-D Conformal External Beam Radiotherapy Group.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	343-7	2009
Isohashi F., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Rectal dose and source strength of the high-dose-rate iridium-192 both affect late rectal bleeding after intracavitary radiation therapy for uterine cervical carcinoma.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	Oct. 14,		2009
Utsumi T., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Postoperative radiation therapy after complete resection of thymoma has little impact on survival.	Cancer	115(23)	5413-20	2009
Isohashi F., <u>Koizumi M.</u> , et al.	High-dose-rate interstitial brachytherapy for previously untreated cervical carcinoma.	Brachytherapy	8(2)	234-9	2009
Yamazaki H., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Assessment of influence of smoking, drinking, leukoplakia and dental irritation on local control of early oral tongue carcinoma treated with brachytherapy: age and dental factors are potential prognostic factors.	Tumori	95(4)	461-6	2009
Sumida I., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Verification of air-kerma strength of 125I seed for permanent prostate implants in Japan.	Int. J. Clin. Oncol.	14(6)	525-8	2009
Miyashita M., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Inter-rater reliability of proxy simple symptom assessment scale between physician and nurse: a hospital-based palliative care team setting.	European Journal of Cancer Care	19(1)	124-30	2010
<u>Nakagawa K.</u> , <u>Terahara A.</u> , et al.	First clinical cone-beam CT imaging during volumetric modulated arc therapy.	Radiother Oncol.	90	422-3	2009
Yamashita H., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Correlation among six biologic factors (p53, p21(WAF1), MIB-1, EGFR, HER2, and Bcl-2) and clinical outcomes after curative chemoradiation therapy in squamous cell cervical cancer.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	74	1165-72	2009
Kan Y., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Histological changes after single high-dose irradiation for squamous cell carcinoma arising from a burn scar.	Med. Oncol.	Feb 13		2009

Hashimoto M., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Dose profile measurement using an imaging plate: Evaluation of filters using Monte Carlo simulation of 4 MV x-rays.	Rev. Sci. Instrum.	80	045101	2009
Yamashita H., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Iatrogenic vulvar skin metastases after interstitial radiotherapy for recurrent cervical cancer.	J. Dermatol.	36(12)	663-5	2009
Mori-Uchino M., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Enhanced transgene expression in the mouse skeletal muscle infected by the adeno-associated viral vector with the human elongation factor 1alpha promoter and a human chromatin insulator.	J. Gene. Med.	11	598-604	2009
<u>Nakagawa K.</u> , <u>Terahara A.</u> , et al.	First report on prostate displacements immediately before and after treatment relative to the position during VMAT delivery.	Acta. Oncol.	48(8)	1206-8	2009
Haga A., <u>Nakagawa K.</u> , <u>Terahara A.</u> , et al.	Quality assurance of volumetric modulated arc therapy using Elekta Synergy.	Acta. Oncol.	48	1193-7	2009
Igaki H., <u>Terahara A.</u> , <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Stereotactic radiosurgery for skull base meningioma.	Neurol. Med. Chir.	49(10)	456-61	2009
Yamashita H., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	A retrospective comparison of clinical outcomes and quality of life measures between definitive chemoradiation alone and radical surgery for clinical stage II-III esophageal carcinoma.	J. Surg. Oncol.	100	435-41	2009
Yamashita H., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Umami taste dysfunction in patients receiving radiotherapy for head and neck cancer.	Oral. Oncol.	45(3)	e19-23	2009
Igaki H., <u>Nakagawa K.</u> , <u>Terahara A.</u> , et al.	Contrast media-assisted visualization of brain metastases by kilovoltage cone-beam CT.	Acta. Oncologica	48(2)	314-7	2009
塚本信宏,	IHE-J ROの現状と方向性	日本放射線腫瘍学会誌	21(1)	38-40	2009
寺原敦朗, 沼崎穂高.	IHE-ROの現状と問題点 臨床医およびJASTROデータベース委員会の立場から.	日本放射線腫瘍学会誌	21	49-53	2009
中村直樹, 寺原敦朗.	がん治療の臨床最前線放射線治療を中心に 頭頸部がんわが国の局所進行頭頸部がんに対するCRTの現状.	INNERVISION	24	25-27	2009
Koiwai K., <u>Shikama N.</u> , <u>Sasaki S.</u> , et al.	Risk factors for severe dysphasia after concurrent chemoradiotherapy for head and neck cancer.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39	413-7	2009

Teshima T., Numasaki H., Koizumi M., et al. and Japanese society of therapeutic radiology and oncology database committee.	Japanese structure survey of radiation oncology in 2005 based on institutional stratification of Patterns of Care Study.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	72(1)	144-152	2008
Toita T., Kodaira T., Uno T., Misumori M., Teshima T., et al.	Patterns of radiotherapy practice for patients with cervical cancer (1999-2001): Patterns of Care Study in Japan.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	70(3)	788-794	2008
Toita T., Kodaira T., Uno T., Misumori M., Teshima T., et al.	Patterns of pretreatment diagnostic assessment and staging for patients with cervical cancer (1999-2001): Patterns of Care Study in Japan.	Jpn. J. Clin. Oncol.	38(1)	26-30	2008
Uno T., Sumi M., Numasaki H., Mitsumori M., Teshima T., et al. for the Japanese PCS working subgroup of lung cancer.	Changes in patterns of care for limited-stage small cell lung cancer: Results of the 99-01 Patterns of Care Study-A nationwide survey in Japan.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	71(2)	414-419	2008
Ogawa K., Nakamura K., Onishi H., Koizumi M., Mitsumori M., Teshima T., et al. Japanese PCS working subgroup of prostate cancer.	Radical external beam radiotherapy for prostate cancer in Japan: differences in the patterns of care among Japan, Germany, and the United States.	Radiat. Med.	26	57-62	2008
Kenjo M., Uno T., Numasaki H., Teshima T., Mitsumori M., et al.	Radiation therapy for esophageal cancer in Japan: Preliminary results of the Patterns of Care Study 2003-2005.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	72(1)	Suppl. S267	2008
手島昭樹, 日本 PCS 作業部会.	特集2 放射線治療の現状と今後 PCSからみた問題点—米国との比較.	映像情報 Medical	40(6)	602-605	2008
手島昭樹, 他.	特集 医学物理士の養成～放射線治療高度化で急務に～米国に学ぶ医学物理士の養成・活用法.	原子力eye	54(10)	16-20	2008
手島昭樹, 日本 PCS 作業部会 (厚生労働省がん研究助成金計画研究班 8-27, -29, 10-17, 14-6, 18-4).	4. PCS (Patterns of Care Study)による日米間の放射線治療の比較	Cancer Frontier	10 (1)	143-150	2008
小澤壯治, 日月裕司, 宇野隆, 手島昭樹, 沼崎穂高, 他.	I. 食道癌, 1. 食道癌全国登録再開にあたり-問題点と解決法-Current Organ Topics Upper G.I. Cancer 食道・胃癌.	癌と化学療法	35(9)	1497-1499	2008
Fujihara A., Miki T., et al.	Intratumoral injection of inactivated sendai virus particles elicits strong antitumor activity by enhancing local CXCL10 expression and systemic NK cell activation.	Cancer Immunol Immunother	57	73-84	2008